女性消防団員と市長の対談

女性消防団員の入団を促すには、もっと活動の場を広げるためにはどうすればいいかー。

女性団員が、日々感じていることや現状の問題点などを市長に伝えることで、より活躍できる環境を整備するための取組み（対談）が行われ、ともに決意を新たにしました。ここではその内容を紹介します。

※記事中の団員・団長の肩書は令和5年度当時のものです

消防団員を志したきっかけ

市長　私も7年間、消防団員の経験があって、団員になる前は「入るといろいろ大変かな」という印象もあったんですが、でも実際は結構自由で、消防団の経験ができてよかった、と思いました。

皆さんも良い面、大変な面があると思いますので、その辺を率直に、まずは消防団員を志したきっかけをお話していただければと思います。

五十嵐　私は、就職が決まり地元で生活を始めるタイミングで、何か役に立てることがないか、と思ったことと、子どものころから地元にいて、周りの人と関わりがあり、消防団に入りやすかったというところがあります。

中村　私は、たまたま五十嵐さんと同じ職場にいた時、五十嵐さんが広報（平成29年3月号）に載っているのを見て、「女性も入れるんだな」って思い、自分が育った地域に何か役に立てたら、と思って入団しました。

品川　私も、中村さんと仕事が一緒で「消防団に入っている」と聞いて紹介してもらいました。父が今も消防団員なんですけど、昔、山火事の消火に行った姿を見て。

市長　（平成9年の）秋間の山火事のことですよね。

品川　そうです。3日間帰ってこなくて心配したんですが、そんな話を聞いていると、ただ待っているだけじゃなくて自分も大人になったらできることをしたい、と思っていたので入りました。

町田　私は、防火クラブで消防団の皆さんに会う機会があって。15年くらい前、消防団にお世話になったので、それも縁かなと思って、入団させていただきました。

大事に思っていること

市長　消防団員として活動する中で大事に思っていることや、やりがいを感じることはありますか。

五十嵐　「しっかり訓練をしないといけない」と日ごろから思っています。水圧とか機械の重さとか、訓練や行事で実際に機器を使わないとわからない。いざという時にけがをしないため、積極的にしっかりやりたいです。

中村　保健師として働いているんですが、看護師資格もあるので、それを生かした、また女性視点からの活動ができればと思っています。私は力に自信がないのですが、できるだけ訓練に参加して操作など自分ができることを頑張っています。

市長　看護師の経験、資格があると、活動にプラスになると思うんですが。

中村　そうですね。火災や地震の際、お子さんや高齢の人は女性だと安心するんじゃないかと思うので、そういったところで活躍できればいいな、と思っています。

第1分団
（安中）
五十嵐　穂乃佳　団員

第2分団
（原市）
中村　ちひろ　団員

第2分団
（原市）
品川　由衣　団員

第12分団
（西横野）
町田　衣代　班長